

令和4年度 第3回 学校運営協議会 議事録

- 1 日時・場所 令和5年2月6日（月） 午前9時30分から午前11時30分
伊豆田方分校 PC 室
- 2 参加者 学校運営協議会委員
河野 真人、鈴木 志津子、岩田 聡志、海野 貴、川口 佐知子

伊豆田方分校
校長、教頭、主事、教務課長
- 3 協議事項等
 - (1) 校長挨拶
 - ・学校運営協議会の役割について→学校の運営の充実化を狙いとする。
 - ・来年度→学校運営に関するサポート体制をより強固にしたい。
 - (2) 後期の取り組みについて
 - (ア) 今年度の取組の報告（部主事から）
 - ・スライドにて紹介（11月～2月の様子）
エス・ウェル・フェス、田農祭（校内発表、一般公開）、1年生短期実習、ふれあいマルシェ（総合文化部）、修学旅行、かがやき杯、生徒会選挙など
 - (イ) 今年度の取り組みの反省・評価・次年度のアイデア（教頭から）
 - ・安全～防災教育のさらなる充実、田農や保護者との防災面での連携を行う。
家庭と協力して、防災食のローリングストックを行う。
生徒の心理的安定を図るための環境づくりを行う。
教職員の職場環境整備のため、サーバー内のデータ整理を行う。など
 - ・専門性～職員研修での成果を活かし、生徒の主体性を更に延ばしていく。
就労を含めた卒業後の生活をイメージし保護者と連携して指導を進める。
など
 - ・連携～中学校との情報交換、情報共有を密にする。
新入生保護者との面談を4月に行い、生徒理解や保護者との関係を深める。
ICT 機器の生徒主体の活用と、外部講師による安全な使用の徹底を充実させる。など
 - ・チーム～突発的な対応にも、本校事務室と情報共有を行い相談したことで、連携を図ることができた。
 - ・学校経営自己評価～B 評価についての補足

(3) 作業学習の見学

- ・木工班、陶芸班、園芸班の見学（清掃班は塚本公民館清掃のため不在）

(4) 学校運営に係る意見交換

(ア) 今年度の評価について

安全～・災害の発生は予測不可能である。その時に備え、充実した防災学習を継続してほしい。

- ・多くの交流活動などを通して、人に対しての思いやりの心を育めるようにしたい。

- ・保健指導や性の指導、道德教育など専門家も交えた指導も考えていきたい。

専門～・将来を見据えた目標を設定することは大切である。朝から夕方まで、1日を通した作業学習も必要ではないだろうか。

- ・作業班での朝礼はいいことだと思うが、一つ一つの内容にどのような意味があるのか理解することや、形式的になっていないかを振り返ることが大切。

- ・学校で身に付けたことを一般就労に結び付けていけるようにしたい。そのためには、学習の様子や身に付けた力を外部にアピールしていけると良い。

- ・進路決定までの流れなど、進路指導の内容についても知りたい。

連携～・田方農業高校、伊豆の国特別支援学校、函南町などとの連携活動を活用し、生徒のコミュニケーション能力を向上させたい。

- ・評価表の中に福祉事業所という言葉がないが、福祉事業所との連携や就労移行支援会議での理解啓発も大切であるため、その視点ももっておきたい。

- ・卒業後5年間は仕事の定着率などを追って、離職理由等の考察をしてほしい。

- ・地域の学校として福祉事業所との連携は必要となってくるので、そのことも盛り込んでみてはどうか。

- ・B型事業所から一般就労にステップアップする上で、特性に合った事業所選びは重要。実際にどんな場所なのかを見学して選ぶことが望ましい。

チーム～・教育の充実のために予算案は必要なので、事務室との連携は大切である。

- ・保護者同士の連絡手段がなく、PTAの活動運営や役員決めが難しい。

(イ) 次年度の運営計画案について

- ・作業学習については、主体性の部分に今後の伸びしろが期待できるため、自分達で考えて判断できる場面を増やしたい。また作業前の服装点検や体操など、一つひとつの活動に生徒自身が意義や価値を感じられるよう、分かりやすい説明や実感できる体験を用意したい。

・新入生保護者との早期の連携構築のため、入学後の早い時期に面談を設けたい。また、卒業後の経過について情報を収集して分析するなどして、卒業生のアフターケアの充実にも努めたい。

・田農との交流の良さを中学校関係者にも知ってもらえるよう、伊豆田方分校の特徴

を発信してアピールしていきたい。

- 生徒たちが日頃担っている役割や普段できていることを評価することで、一人一人を認めてあげてほしい。誰もが主役になれるような学校づくりをしていきたい。
- P T A用の P Cを用意し I C T活用を進め、P T A活動の合理化と活性化を図っていきたい。